

新聞紙で遊ぼう（さくらクラブを訪ねて）

泉川小学校放課後児童クラブ「さくらクラブ」を訪見し、新聞紙を使って楽しく遊んだ1時間30分。汗びしょりで思う存分遊んだ楽しい時間となりました。指導は、瀬戸児童館の高橋指導員と瀬戸会館の神野指導員。

まず、最初は新聞紙を手で切っていく「どこまで長く切れるかな」ゲーム。新聞の全紙一枚を手で切り裂きながらその長さを競うもの。新聞紙をただ細くちぎっていただけだが、これが案外難しい。蚊取り線香のように丸く切りだしていくもの、短冊を連ねたように細長く切っていくもの……。長くつながらなくて何度もやり直す子、首をかしげながら試行錯誤、子どもたちなりの工夫が見える。そのうち新聞紙には繊維の方向性があることに気づく。これらの子はその紙の繊維の方向に沿って、より細長くスムーズに切り裂いていく。長く切り裂いた新聞紙は次々と体育館の床に並べられてその長さを競う。苦労した自分の作品を静かに眺める子。誇らしげににんまりと笑う子。考え工夫した作品のできばえを見る子どもたちの表情はなんとほほえましい。



瀬戸会館だより
平成24年10月号
新居浜市瀬戸会館
〒792-0821
新居浜市瀬戸町7-30
E-mail
seto@city.niihama.
ehime.jp
TEL 0897
41-5859
(FAX 兼用)

回転木馬のおはなし会

8月23日(木)、泉川小学校の放課後児童クラブを「お話の会～回転木馬～」の皆さんとともに訪問した。開始時間の10時前には70人余りの子どもたちが今や遅しと、その時を待っている。館長の挨拶のあと、回転木馬の皆さんを紹介し、早速、紙芝居がはじまる。

最初は「のっぺらぼう」という話で、小泉八雲の怪談を脚本化した紙芝居。怖いもの見たさで聞き入る子どもたち。つづいて「ヒマワリ」の紙芝居。ひまわり畑に咲きそろう写真に目を見張り、声を上げる子どもたち。見慣れたヒマワリにも、自然界でいろいろ役立っていることを美しい絵とともに紹介している。

つづいて絵本を広げ、お話しは「ひものでござい」。これはなじみの“干物”のお話であるが、そのあと手指を使っていろいろな“魚のひらき”の唄を歌いながら指を動かす指遊びも楽しんだ。そして、民話「うりこひめ」、「ともだちやもん みんな」、「ぶーちゃんと おにいちゃん」など絵本の読み聞かせ。更に手遊び唄2曲。なんとも盛りだくさんのたっぷり1時間。子どもたちの満足げな表情は、注意をひきつけて飽きさせない読み手の技術の高さを思わせるものであった。



つづいて、その新聞紙を丸めてボールにし、両手で引っぱって新聞紙の上でトランポリンのように跳ねさせて遊ぶ「ボンバーゲーム」、そのボールを輪ゴムで吊り下げ手のひらでつく「新聞紙ヨーヨー」、そして「新聞紙の片づけ競争!」、最後はみんなで手をつないで大きな輪をつくり「なべなべ底ぬけゲーム」。体育館での暑期中、水分補給をしながらゲームを堪能した子どもたちでした。

10月公演

回転木馬

おはなし会

10月24日予定

10:30~11:00

瀬戸児童館



「人権のつどい日」にひろ

9月11日(火)は『花咲く日』という映画を視聴した。司会の藤田利郎さんから、「ドラマに出てくる家族が、それぞれ自分一人ひとりの問題としてどのように考え行動したか、あるいはどのように変わっていったか、を見てください」と事前に視点が示され、分かりやすかった。

ドラマは、次男が結婚の約束をした相手が同和地区出身であることから、家族の間に様々な人間模様が浮かびあがる。そして隣家には、同和地区出身の男性と結婚した娘を家に寄せ付けない三浦の爺さんが居る。視聴後の話し合いでは、「三浦の爺さんは自分自身を変えない限り、可愛い孫にも会いに行けない。差別というのは、この場合、差別する人も差別される人も共に苦しんでいる」「みんなが自分を変容させていけるような取り組みをしていけたら」などの声が続いた。

人権あらかると

私の人権宣言（2）

中学校 1年生

でもその時、次の質問が出されました。「いじめのない環境作りをどうするか？」私はハッとしました。そうだ、いじめを無くせば一人で悩んで苦しむ人がなくなる！だからいじめをなくしたい。そう思いました。そしてこの質問から、学級人権宣言作りが始まっていったのです。

小さな言葉の表現で、受け取る印象が変わること。読んだときに明るい気持ちになれるような言葉選び。本当に細かい所まで話し合っ、私たちの「学級人権宣言」はできあがりしました。

一年 学級人権宣言

- 一人で悩まず信頼できる人に相談する。
- 見て見ぬふりをしないで、自分のできることを考えて行動する。
- 素直な気持ちで感謝の気持ちを表す。
- 一人ひとりがみんなのことを大切に思い、いいところを見つける。
- 自分勝手な見方、考え方、行動をしない。

朝の会では、みんな声をそろえて大きな声でこの宣言を読みます。朝、自分にこの宣言を言い聞かせるのです。そして、私は、この宣言のおかげで変わることができました。授業でもあまり深く人権や差別の問題に関心を持てなかったこと。友達にキツイことを言ったり、軽い気持ちでたたいたりしていたこと。素直に「ありがとう」「ごめん」が言えずにいたこと。人によって少し態度を変えたり、短所ばかりを見たりしてしまうこと。どれも今までの私の中にありました。それでも、この人権宣言のおかげで私は、変わったのです。

人権、差別問題に真剣に取り組む。友達だけではなく、周りの人みんなを大切に思う。素直に感謝する。今の私は前の私とは違います。そしてわたしは、私が変われるきっかけになった「学級人権宣言」が大好きです。これからもずっと大切にしていきます。

平成20年度 人権・同和教育資料

『人権作文集』（新居浜市教育委員会）より

楽しかったネ！

9月14日(金)は泉川保育園で『敬老の日』にちなんだ「地域交流ふれあい遊び」が催された。年長組、年中組の皆さんが待機する教室におじいさんおばあさんが入ってくると、園児たちの中に大きく手を上げて合図する姿が見える。おじいさんおばあさんにもっこり手を振って応える。

先生の合図で「おじいちゃま、おばあちゃま、おはようございます」と園児たちのごあいさつ。まず最初は、屋外に出たの体操。外に出るときの動作はとても行儀よく、テキパキと動く。大きな桜の木が見下ろす



サークル訪問 手芸教室「照」

皆さんは、指導に当たる高橋照子先生を囲んで毎月一回、第2金曜日の午前中約2時間、当館のC室で活動している。9月8日は8名が参加、それぞれテーブルの上に材料を並べ作業が始まる。待ち針などの貸し借りの場面では、「ひとのもんも、わがもんよ！」と軽いジョークもとびだす。また、型紙づくりの場面では「厚紙の方がええんでしょ。でも今日忘れたんです」と言った直後に「あっ、箱こわします」と応用力バツグンの展開。赤い長じゅばんの生地を見て、映画に出てくる遊郭のワンシーンにまで話題が広がる。明るい言葉のやりとりが続くが、皆さんの手の動きは止まらない。「さすが！」である。途中から一人加わりぎやかになる。そこで皆さんティータイム。

「こういうふうに交叉するからね、白と赤と……。こっちは身頃じゃけんね」と照子先生の説明が随所に入る。目指す作品は可愛いピエロ。「これをまっすぐ縫うてね、広げてね」、「そう、こっちも端から端まで」と一人ひとりに具体的に、ていねいに話される。やさしく、おだやかな口調だが声はよく通る。横から「アイロン、私、かけよかあ」と作業がしやすいようにアイロンかけを買って出る人。早速ハンディな可愛いアイロンが赤い布地の上を走り、気持ちがいいほどシワが伸びていく。

孫の運動会の話、孫の幼稚園の行事に参加する予定の話、皆さん共通の話題を追う声には張りがあり、このサークルが、「若さ」をキープする場になっているように感じた。

10月の主な行事予定

10月3・24日(水) - 移動図書館

10月11日(木) - 人権のつどい日「被災地における支援活動を通じて感じたこと」 講師 越智 美保さん

運動場に出ると、「きれいに並びましょう」と声をかけて整列完了。おじいさんおばあさんは園舎の日陰を求めて長あ〜く横に二列。「ラジオ体操第一」などの運動のあと、再び室内に移動。

西原審園長さんのあいさつのあと、園児たちが大きな声で「きょうはきてくれてありがとう。いっしょにあそびましょう」とあらためてごあいさつ。プログラムは「トンボのメガネ」の歌で始まり「夕やけこやけ」へと順に続くが、園児は少々緊張さみ。ところがおじいさんおばあさんと一緒のお遊戯になると、一転雰囲気盛り上がる。

やがて休憩に入り水分を補給。園児たちは水筒で、招待席にはペットボトルのお茶が届き、早速いただく。一息入れて再開し、「森のクマさん」など楽しい歌が続くが、最後はなんと、数人がまとまって演技する組体操！しかも、中学校の運動会で見るような演技がほとんどできる、と思うほどの見事さだった。また、見事さ、と言え先生方の連携もバッチリ。それにもう一つ、ユーモアを交え臨機応変に対応する保子知子先生の名司会、進行ぶりだった。この日冷房で涼しい教室に、皆さんの熱気があふれていた。